



Title	2025年度 意匠学会作品賞・作品奨励賞選考結果報告
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 2026, 88, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/106182
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2025 年度 意匠学会作品賞・作品奨励賞 選考結果報告

学会賞選考委員会
委員長 伊原久裕

作品賞

受賞者

村井陽平

受賞作品

「卵殻プラスチックを用いた子供用食器の開発」

選考理由

本作品は、環境負荷を軽減したバイオマス樹脂である卵殻プラスチックを利用した製品開発において構想された子供用食器の製品である。環境負荷の軽減は、現代においては重要なデザイン課題としてすでに認知されているが、卵殻プラスチックは素材価格が高額であることが大きなネックとなっていた。作者はこの課題を解決するために、まず、高価格でも贈り物としての購入が期待できる子供用食器という対象をコンセプトとして提案し、次いで、卵殻プラスチックという素材の質感に着目し、造形的特性として活かすための検討を行った。さらにユーザーへのアンケート調査などをふまえつつデザイン制作を行った。その結果、造形面においても完成度の高いデザイン作品となり、ユーザーからも好意的に受け入れられた。審査においては、企業商品であることから、ひとりの作品として評価するさいの範囲について議論があったものの、多くの現実的課題をクリアし、社会実装されたデザインとして高く評価された。また、本作品にはすでに各種の受賞歴があることも、その評価にプラスとなった。

以上より、本作品は意匠学会作品賞にふさわしいものと認められた。

作品奨励賞

受賞者

はしもとさゆり

受賞作品

「家を繕う ― 青島工芸による京都・西陣の職住一体型町家改修の事例から ―」

選考理由

本作品は、京都市のとある町家を対象としたいわゆるリノベーションによるデザイン実践の事例であるが、町家の保存という目的に加え、「ものづくりを開く」ことを大事な視点として提案したとする主張がユニークである。「家を繕う」という意表を突く標題にこの主張が含意されており、作者はそれを「靴下の穴を縫うような感覚で家づくりを行った」と形容している。作者は博士課程に在籍し、これまで学会の例会において靴下の縫いに関するテーマで研究発表するなど研究活動を行いつつ、「縫う」という独創的なコンセプトに基づいて社会においてデザイン活動を実践しており、その将来性がおおいに期待できる。

以上から、本作品は、意匠学会作品奨励賞にふさわしいものと認められた。

選考経緯

作品賞の選考は、第 67 回意匠学会大会におけるパネル発表 5 点を対象とした。作品賞審査にあたり、大会発表会に出席した学会賞委員のうち、発表者の村井陽平委員と指導学生が出品している佐藤博一委員を除いた今井美樹委員、石川義宗委員、伊原久裕委員、ならびに役員会において承認された塚田章会員、益岡了会員、谷本尚子会員の 6 名で審査にあたった。審査は、大会での作品発表後に委員各自で順位づけを含む講評資料を作成し、9 月 26 日 17 時から 1 時間程度、講評に基づきオンラインにて総合審査を実施した。

作品賞については、選考委員 6 名中 5 名が村井氏の作品を第一候補として評価しており、協議の結果、全員一致で決まった。作品奨励賞については、「将来性を期待される学生を含む若手会員」という学会賞規定に則して 2 名が候補者としてあがり、検討の結果、積極的に社会活動を行っているはしもと氏が選出された。